

User Report

総合警備業

株式会社にしけい

暮らしの安心を守る大前提は、社会からの揺るぎない信頼。
運転適性を見極め、事故ゼロの目標達成に役立っています

運輸業に携わる企業が「Gマーク」取得・更新の取り組みとしてドライビングシミュレータを活用する一方、Gマークとは関係ない業界でもACM300の導入が進んでいます。空港・港湾からオフィスビル・商業施設まで、幅広い警備サービスを提供する(株)にしけいの活用例をご紹介します。

ご利用機器



PC、ステアリング、ペダル、プリンターがセットになった卓上型ドライビングシミュレータ「ACM300」

選定ポイント

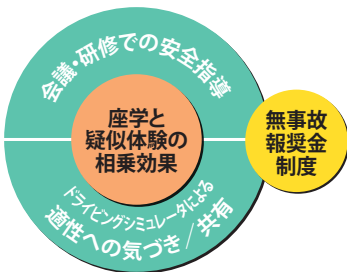
場所をとらず、コンパクトに収納できる。
運転適性への気づきと把握に重点

吉本：当社は空港・港湾警備、現金輸送業務、オフィスビルや商業施設等の機械警備を主軸として事業を展開しています。なかでも現金輸送や機械警備に使う車両は460台余り、携わる警備員は1000名を超えております。その安全対策については、従来から様々な会議や研修の中で啓蒙・指導を繰り返し行ってきたのですが、やはり口頭指導だけでは浸透しにくいのではないかと、一人ひとりの意識を高めるための新しいツールとして、ドライビングシミュレータの活用に着目しました。

選定の段階では一台1000万円を超えるような固定式の機器もありましたが、ACM300が何より良かったのは、場所をとらず、コンパクトに収納できる点。当社は九州各県だけでも30余りの拠点があるため、持ち運びができることで汎用性も広がります。多拠点での活用を考えると、やはりこのコンパクトさと持ち運べる点は魅力でした。

井下：現在どのように活用しているかという点、主に適性への気づきと把握に重きを置いています。例えば

人材の採用に際しても、運転免許の有無だけでは、運転経験やクセまでは分かりません。そこで、各拠点からの要請に応じてシミュレータを貸し出し、車両を使う警備業務への適性判断の材料にしてお



取材ご協力

株式会社にしけい

管理本部 部長 那川 雅弘 様

営業本部 営業企画部 係長 井下 知也 様

管理本部 係長 吉本 和博 様

〒812-8530
福岡県福岡市博多区店屋町5-10
TEL 092-281-8500 FAX 092-281-8573

うという趣旨です。また、極めて残念ではありますが、中には事故に巻き込まれてしまう人もいます。そうしたときにシミュレーションを通じて自分の運転特性や適性を見つめ直し、後々の業務に活かしてもらおう、といった使い方もしています。

意識の変化 「適性」を共有し安全意識を促す
繰り返し働きかけていくことが重要

那川：運転特性を共有できるというのはスタッフを管理する上でもとても重要で、支社の幹部に向けて、適性を把握した上でのケアをしっかりと行うようお願いしています。例えば車両出発前の声かけなども、クセや特性が分かっていたら一人ひとりに応じて工夫できます。実際のところ社員ごとの事故再発率はゼロになっており、これは導入の効果だと思っています。

井下：実際にシミュレータを経験した社員からも「いいきっかけを作ってもらった」、「自分の技能を過信していた」、「運転が得意だと思っていたが、そんな自分を見直すきっかけになった」等の感想が寄せられていますね。

吉本：私のほうでは適性診断の結果をデータ化し分析しているのですが、終業間際の事故リスクが確率的に高くなっていることが分かりました。疲れが一番ピークになっている時間帯であり、これは今後の指導に役立てていく課題だと認識しています。また、今は「業務中の安全」への取り組みが

中心ですが、ゆくゆくは通勤時や仕事以外での運転も視野に入れて、教育・啓蒙活動の幅を広げていけたらと思っています。シミュレータの良さは、車の運転そのものに潜む危険性や自身の特性を、頭ではなく体で理解してもらえ点ですので、それをどう活かすか構想中です。

那川：当社にとって最も大切なのは「社会からの信頼」です。業務上、車は社会の安心・安全を守るために不可欠なツールですが、その使用によって事故が起きてしまうというのは、あってはならないこと。今日まで無事故だからといって、明日も無事故である保証はどこにもありません。シミュレーターを使った疑似体験を含め、繰り返し、繰り返し働きかけをしていくことが重要だと考えています。



取材後記 安全教育・対策の拡充を進める一方、同社では無事故者への報奨金制度も長年続けている。車両を使う警備業務に従事し、2年間無事故だった従業員が対象で、年2回実施。毎回報奨金を受けとるスタッフは、平均百名程に達するそうだ。